

函南町の子どもたち



令和7年10月 函南町教育委員会

令和7年4月に実施した「全国学力・学習状況調査」の函南町立小中学校の調査結果について、概要をお知らせします。本調査は小学校6年生、中学校3年生を対象に実施し、今年度は「国語」と「算数・数学」「理科」の3教科について調査しました。「理科」と生活や学習のようすに関する「児童生徒質問調査」については、一人一台端末を用いたオンラインによる回答（C B T）で実施されました。また、中学校の「理科」では、「IRT（項目反応理論）」という方法がはじめて導入されました。これは、生徒一人ひとりの能力に合わせて異なる問題が出題される新しい評価方法であり、このIRTにより、これまで以上に生徒の学力を正確に把握できるようになり、今後、他教科においても導入が検討されています。



教科に対する調査結果や児童生徒質問調査から、函南町の子どもたちのよいところや今後の課題についてまとめました。本町の調査結果についてお知らせすることにより、保護者の皆様をはじめとする家庭・地域・学校が連携して、子どもたちの生活や学習状況を改善していきたいと考えています。また、本調査から読み取れることは、児童生徒の学力の一部であり、学校の教育活動の一側面であることをご承知おきください。

教科に対する 調査結果から

全国の平均と比べたときの差
「◎」…高い 「○」…やや高い 「□」…ほぼ同じ
「△」…やや低い 「▲」…低い



【小学校国語】

全体正答率		△
知識及び技能	(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	○
	(2)情報の扱い方に関する事項	▲
	(3)我が国の言語文化に関する事項	△
思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	△
	B 書くこと	▲
	C 読むこと	△

【小学校算数】

全体正答率	△
A 数と図形	▲
B 図形	○
C 測定	△
C 変化と関係	▲
D データの活用	▲

【小学校理科】

全体正答率	△
知識・技能	△
思考・判断・表現	△
エネルギーを柱とする領域	△
粒子を柱とする領域	△
生命を柱とする領域	△
地球を柱とする領域	△

- ・小学校国語では、言葉の特徴や使い方に関する領域が全国平均をやや上回り、それ以外の項目では、全国平均をやや下回りました。
- ・小学校算数では、図形の領域に関する領域が全国平均を上回り、それ以外の項目では、全国平均をやや下回りました。
- ・小学校理科では、全項目において全国平均をやや下回りました。

【中学校国語】

全体正答率	□
知識及び技能	(1)言葉の特徴や使い方に関する事項 ○
	(2)情報の扱い方に関する事項 △
思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと □
	B 書くこと □
	C 読むこと △

※中学校国語 知識及び技能の(2)、(3)の項目は集計対象外

【中学校数学】

全体正答率	△
知識・技能	△
思考・判断・表現	△
A 数と式	□
B 図形	□
C 関数	▲
D データの活用	△

【中学校理科】

全体正答率	○
知識・技能	○
思考・判断・表現	○
エネルギーを柱とする領域	○
粒子を柱とする領域	○
生命を柱とする領域	○
地球を柱とする領域	○

- ・中学校国語では、言葉の特徴や使い方に関する領域が全国平均をやや上回り、読むことに関する領域が全国平均をやや下回りました。
- ・中学校数学では、全体正答率が全国平均をやや下回り、特に関数の領域に課題が見られました。
- ・中学校理科では、全項目において全国平均をやや上回りました。

国語（小学校）

※令和7年度全国学力・学習状況調査問題より抜粋。紙面の都合上、調査問題の一部を変更、修正しています。

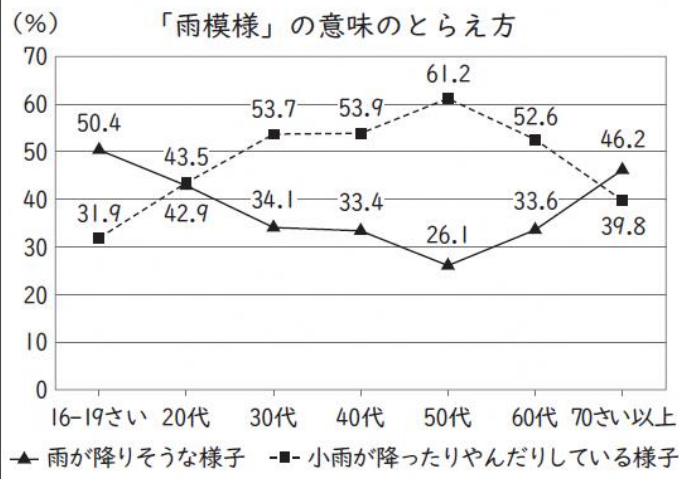
できているところ（全国との比較）

- 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うこと。
- 話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめること。



この問題に注目！ ～今後伸ばしたいところ～

目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つける力



（文化庁『令和4年度国語に関する世論調査』による。）

【資料4】

田中さん：私は【資料4】を見つけたよ。これを見ると、世代によって、「雨模様」の意味のとりえ方にちがいがあることがわかるでしょ。

木村さん：本当だ。三十代から六十代は本来の意味とはちがう「小雨が降ったりやんだりしている様子」ととらえている人の割合が高いね。

田中さん：こんなふうに、人によって言葉の意味のとりえ方がちがうと、伝え合うときに困ると思うよ。だから、【資料1】に「A」と書かれているとおりだと思うよ。

【小学校】③ 三 木村さんは、言葉の変化について田中さんと話し合いながら、【資料1】を読み返しています。※【資料1】は著作権の都合上、掲載しません。

【正答】③

③を選んだ児童は、【資料4】が示す内容を理解した上で、木村さんの考えが、伝え合うときに困ること、つまりコミュニケーションの食い違いについてであると読み取ったと考えられます。

- 問 田中さんの発言「A」に当てはまる内容として適切なのは【資料1】の文章にある①～④のどれか。
- ① この本を読むとお気づきになると思います
 - ② 「本来の意味」「本来とは違う使い方」といった言い方にとどめています
 - ③ コミュニケーションの食い違いを放置しておくわけにもいきません
 - ④ 「言葉は生きている」とも言われます

②を選択した児童は、田中さんの考えが、「伝え合うこと・コミュニケーション」についてであることよりも、資料1の文章にある「言葉の意味についての正誤」に注目したと考えられます。資料や文章の量が多く、読解を進めていくうちに、「何を問われているか」という題意を見失ってしまったとも考えられます。



POINT

- ・発言内容から、語り手の伝えたいことを自分なりに要約、解釈すること。
- ・目的に応じて、文章と図表などを結び付けて必要な情報を見つけること。

算数（小学校）

※令和7年度全国学力・学習状況調査問題より抜粋。紙面の都合上、調査問題の一部を変更、修正しています。

できているところ（全国との比較）

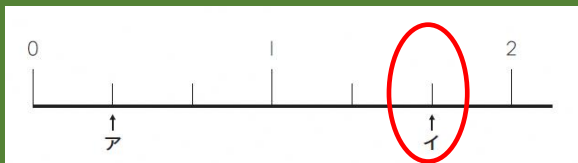
- 台形などの図形の意味や性質について理解すること。
- 図形の性質を基に、コンパスを用いて目的の図形を作図すること。



この問題に注目！ ～今後伸ばしたいところ～

分数の本質的な理解（1の目盛りを基準に、分数が単位分数の幾つ分かとらえる力）

【小学校】③（3）次の数直線のイの目もりがあらわす数を分数で書きましょう。



【正答】

アは $\frac{1}{3}$, イは $\frac{5}{3}$ または $1\frac{2}{3}$

函南町の児童の正答率は約28%であり、特に正答率が低い問題のひとつでした。

イを $\frac{5}{6}$ と考える児童が多いようでした。なぜそのように考えたのでしょうか？

ぜひご家庭でも議論してみてください。



理科（小学校）

※令和7年度全国学力・学習状況調査問題より抜粋。紙面の都合上、調査問題の一部を変更、修正しています。

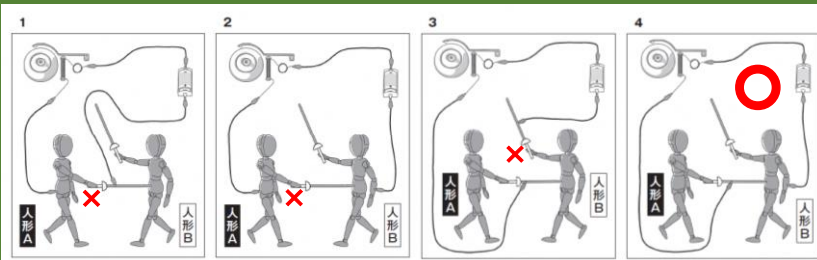
できているところ（全国との比較）

- 電磁石の強さと巻き数の関係について理解すること。
- 粒の大きさと水のしみこみ方の関係について、結果をもとにまとめること。

この問題に注目！ ～今後伸ばしたいところ～

電気が通る回路の作り方を理解し、表現する力

【小学校】②（2）電気が流れてベルが鳴る回路は1～4のどれでしょうか。



【正答】4

剣の中にも電気を通す部分と電気を通さない部分があることを理解し、回路の一部が切れているかどうかという視点で考えた児童が正答できたと考えられます。

多くの児童が2、3を選択したことから、人形Aと人形Bを含む回路を構想することができました。電気を通さない持ち手の部分が回路に含まれるかどうかを判断することに課題があると考えられます。実験で使用する導線だけでなく、身のまわりにも電気を通す物質が多く存在することを理解することも重要です。

国語（中学校）

※令和7年度全国学力・学習状況調査問題より抜粋。紙面の都合上、調査問題の一部を変更、修正しています。

できているところ（全国との比較）

- 文脈に合う漢字を使ったり、手紙の下書きを見直し、誤った漢字を訂正したりすること。
- 文章全体と部分に注目し、登場人物の設定の仕方をとらえること。

この問題に注目！～今後伸ばしたいところ～

読み手の立場に立って、語句の用法や叙述を確かめ、文章を整える力。

【正答例】

- ・「指導してもらい」を「指導していただき」と謙譲語にすることで、敬意を表す。
- ・「一つ一つ仕入れた商品を下処理したり」を「仕入れた商品を一つ一つ下処理したり」にすることで、「一つ一つ」が「下処理」に係ることを明確にする。

先日、ご協力くださり、さて、昨日は、私たちの職場体験活動に協力してくださりました。大野さんをはじめ、お店の皆さんに親切に指導してもらい、多くの学びを得ることができました。この体験活動をするまで、私は、生花店で働くことについて、華やかなイメージしかもっていなかったのですが、皆さんに教わりながら、一つ一つ仕入れた商品を下処理したり、葉や花びらが落ちていないように気を付けたり、花を長持ちさせる方法や花言葉を勉強したりすることを通して、華やかさの裏には、それを支える作業や専門的な知識があることを知りました。

【手紙の下書きの一部】

【中学校】4 二 あなたなら、【手紙の下書きの一部】のこの部分をどのように修正しますか。

条件1～3にしたがって書きなさい。

条件1 言葉の使い方や叙述の仕方などについて、あなたが特に修正した方がよいと考える部分を一つ選ぶこと。なお、【手紙の下書きの一部】の内容は、変わらないようにすること。

条件2 修正する際は、削除したり書き直したりしたい部分を線で消し、書き直す場合は、消した言葉の右横に、どのように直すのかを書くこと。

条件3 修正した方がよいと考えた理由を具体的に書くこと。

【クロス集計】生徒質問票×本設問の正答率

「国語の授業で文章を書いた後に、読み手の立場に立って読み直し、文章を整えているか？」の質問に肯定的に答えたグループの方が、本設問の正答率が有意に高い結果となりました。授業でも、読み手の立場を大切にしたい指導を行っていきます。

正答例として2つの解答を示しました。その他には、どのような修正点があるのでしょうか？ご家庭でもこの文章を推敲し、議論してみてください。



数学（中学校）

※令和7年度全国学力・学習状況調査問題より抜粋。紙面の都合上、調査問題の一部を変更、修正しています。

できているところ

- 必ず起こる事柄の確率について理解すること。
- 事象に則して、グラフから必要な情報を読み取ること。



この問題に注目！～今後伸ばしたいところ～

一次関数の変化の割合や x, y の増加量についての理解

【中学校】④ 一次関数 $y=6x-5$ について、 x の増加量が2のときの y の増加量を求めなさい。

【正答】12

町内生徒の正答率は約25%、無答率は約14%であり、特に正答率が低い設問でした。シンプルな出題でしたが、表や具体的な数値（ x が0から△まで増加するときの…という条件）が示されていなかったため、解決方法を見出すことが難しかったようです。

x	0	1	2	3
y	-5	1	7	13

+12

式に $x=2$ を代入して7と回答する生徒や、変化の割合である6を回答する生徒が多かったです。値、増加量、変化の割合などのことばを正しく理解することが必要です。

実際に簡単な数値を用いた表を作成することで、増加量を求めやすくなります。穴埋めではなく、表全体を自分自身で作成する機会も大切にしていきたいです。

理科（中学校）

※令和7年度全国学力・学習状況調査問題より抜粋。紙面の都合上、調査問題の一部を変更、修正しています。

できているところ（全国との比較）

- 「エネルギー」「粒子」「生命」「地球」の全領域。
- 生じた疑問や見いだした問題を解決するための課題を設定すること。



この問題に注目！～今後伸ばしたいところ～

呼吸などの生命を維持する働きに関する知識を概念として身につける

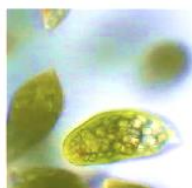
【中学校】① （4）生物1～生物4のうち、呼吸を行う生物をすべて選びなさい。

☐



生物1

☐



生物2

☐



生物3

☐



生物4

【正答】
1～4のすべて

生物は呼吸によって生きるためのエネルギーを得ています。

この問題の正答率は27%でした。植物プランクトンである生物4（ミカヅキモ）は、運動を行わないため、呼吸をしていないと考える生徒が多かったようです。呼吸という働きを、動物と植物に共通な細胞レベルの現象としてとらえていくことが重要です。

生活や学習のようすに関する児童・生徒質問紙調査結果から

全国の平均と比べたときの差

「☆☆」…良好 「☆」…やや良好 「□」…ほぼ同じ 「★」…やや課題 「★★」…課題

質 問 内 容	小学6年	中学3年
自分には、よいところがあると思う	☆	☆☆
先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う	☆	☆
将来の夢や目標をもっている	☆	☆☆
自分と違う意見について考えることは楽しいと思う	☆	☆☆
ＩＣＴ機器を使って文章を作成することができると思う	☆	☆☆
ＩＣＴ機器を使って情報を整理することができると思う	☆	☆☆
課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んだ【主体的な学び】	☆☆	☆☆
授業は自分にあった考え方、教材、学習時間などになっていた【個別最適な学び】	☆☆	☆☆
話し合う活動を通じて、考えを深めたり、新たな考え方に気づいたりできた【協働的な学び】	□	☆
平日の学習時間（１時間以上）	★	☆☆
休日の学習時間（２時間以上）	★★	☆

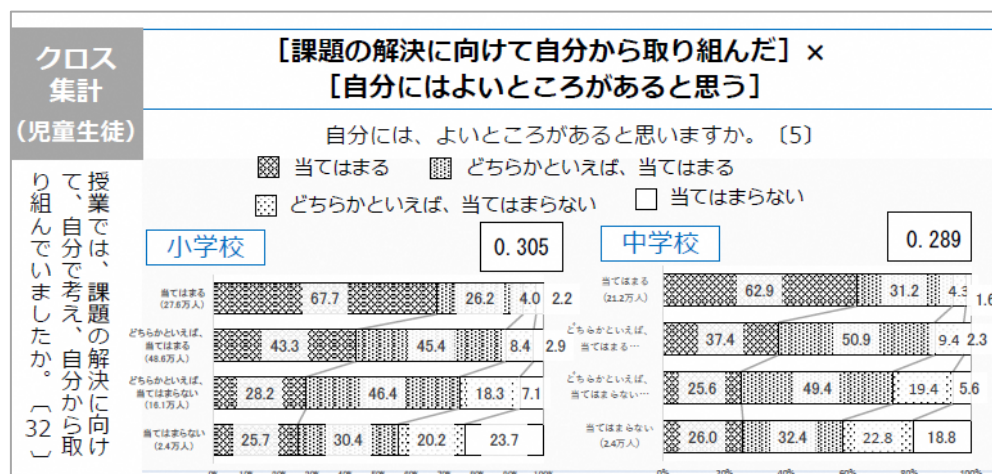


【結果の分析】

- ・自分を肯定的にとらえている児童生徒が多く、要因の一つとして、教師がよいところを認めていることが考えられます。
- ・将来の夢や目標をもっている児童生徒が多いです。
- ・自分と違う意見について考えることは楽しいと回答する児童生徒が多く、寛容の心や物事を多面的・多角的に考える姿勢が育っています。
- ・ICT 使用頻度や情報活用能力が全国平均を大きく上回りました。ICT の活用が、主体的な学びや個別最適な学びの充実につながっていると考えられます。ICT のより良い活用法や、情報モラルについて児童生徒と教師がともに考える機会を大切にしていきたいです。
- ・小学6年生では、平日１時間以上、休日２時間以上家庭学習している児童の割合が、全国平均を下回りました。

クロス集計 ～児童生徒の学びとウェルビーイングの関連について～

今回の調査のクロス集計分析から、児童生徒の学力とウェルビーイング（心身の健康や幸福）には関連があることが示されました。自分に自信をもち、毎日楽しく過ごしている子どもは、主体的・対話的で深い学びのポイントが高い傾向があります。心身ともに健やかであることが、学力向上への第一歩です。ご家庭での温かい声かけが、お子様のウェルビーイングを育む一助となります。今後も学校と家庭で連携しながら子どもたちの成長をサポートしていきます。



令和7年度全国学力・学習状況調査の結果（概要）（令和7年7月 文科省・国立教育政策研究所）より